

# 芦屋市広報

## 新年 特集号

芦屋市精道町93  
発行所 芦屋市役所  
発行人 芦屋市長 増田 誠  
編集人 西田 増 蔵  
印刷所 オール出版印刷 K K  
毎月1回20日発行定価 2円

芦屋市の  
推計人口  
(1月1日現在)

人口総数	52,085
男	25,428
女	26,657
世帯数	12,029

先敬晨啓  
第一新年  
二十九年秋 志

## 茲に輝かしい 昭和二十二年を迎えて

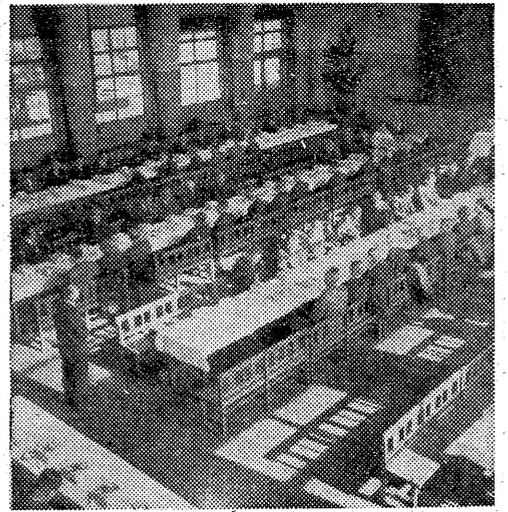
芦屋市長 内海 清



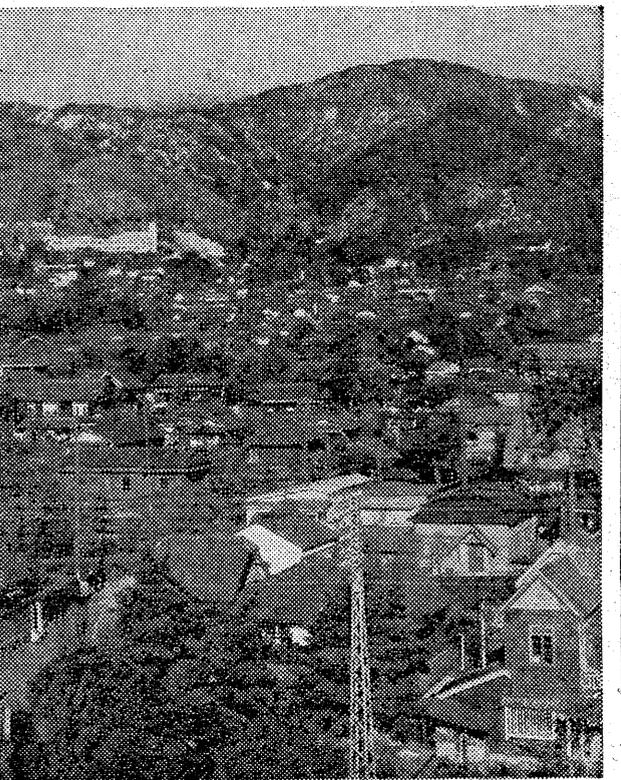
すがすがしい昭和二十二年の新春を迎え、心からお慶び申し上げます。

本年はわが国にとりまして、洞に明るい見通しの年であると思ひます。即ち多年の懸案でありました國運加増は実現し、日ソ國交も回復を見ました。一方経済的にも引つぎ好況をつひ、ますます発展伸張する年であると考へます。この様に本年こそ愈々日本の國威を中外に發揚すべき年でありま

ひるがえつて、本市に於きましても亦同様のことが言えると思つて



新年市政議事会開かる。さき一月十二日、内海市長は市内各界の名士二百人を精道小学校講堂に招き、年頭のあいさつをかね、市政全般にわたる懇談会を開いた。(左写真は会場、下は北部市街の展望)



### 新築住宅は固定資産税減額

未登記分は除外

居住用に新しく建築された家屋の固定資産税は、最初の三年間、半額に軽減する(30坪まで適用)という規定が本市に於いて、現在でも多数の住宅が新築された向は、必ず登記が済ませておられます。

### 新春雑詠 中村 三

わが家の冬あたたかきともしびを  
映せし水田いまはあらずも  
埋められし背戸の水田の慈姑をぞ  
惜しみて今日も妻の言ひつる  
厨芥の上に土かぶせ埋め立てし  
背戸田思へば春安からず

## 発展の新年

芦屋市議会議長 南野辰之助



明けましておめでとうございま

先ず以て、輝く年のはじめに当り、謹んで市民の皆様にお慶び申し上げます。本年のわが国の政治、経済にあらわれ、わが市におきましても、多

皆様も御承知の通り本年はわが国にとって、まことに輝やかしい発展の年であります。すなわち、一昨年以來二年続きの繁栄に加え、産業にも貿易にも飛躍的な発展があらわれました。日ソ復交、國運加入、新内閣の成立など、國際的にも国内的にも、政治上の姿化があらわれ、これ等の効果が本年のわが国の政治、経済にあらわれ、わが市におきましても、多

年の赤字財政や資金不足の苦しみも、昨年度に於いて、旧オートレース場用地の処分、税収入の増大により、また地財法の適用等により、急激に好転しました。一時は一億三千余万円にも及んだ赤字も大いに減少し、一億二千六百万円の再建費で資金操作が内情になり、行財政ともに効率高く運営できようになりました。これは、市民の皆様の大御協力のおかげと、深く感謝いたして居ります。もとより手放しの楽観は禁物でありまして、世界の情勢にも國內の趨勢にも、戒心を要する傾向が少なくありません。芦屋市の場合も、再建五年間、旧債を整理して健全財政を樹立しなけれ

ばなりませんから、消費的経費は極力切詰める必要があります。文教施設や土木・衛生・福祉等の施策には計画的な手を打ちながら財政を健全化するところに、市・市教委当局や市議会の苦心があるべきです。

西の年は結構々々、明けました。しかし、落着かずには居られません。折角の進歩も、トリ逃がすことに相成ります。好況にも腰を落さず、将来のために備えてこそ、黄金の卵を生む鶏のように、堅実な一年が送れるでしょう。

蕪餅を運んでお祝ひですが、以て年頭の御挨拶といたします。皆様のお健康を祈り上げます。

ことしまはね上る舗装率...全国一を誇る本市の舗装率は現在すでに34%に達しているが、5月までにさらに4%を施工し、その上32年度分を含めると4割に達する日も遠くないと思われ(写真は昨秋完成した大原町北部舗装道路)

検察審査員いま改選中  
選ばれたら  
進んで役目を果そう

検察審査会というものは新憲法によって生れた制度で、ねらいは「司法の民主化」にあります。要は民間人が検察官のしごとを監視し、國民の意見を反映するしごとの上で検察のしごとを監督する制度です。

賀 春 青木秋堂





